残りの者 シャーアル

石巻祈りの家NEWS LETTER 「シャーアル」(111号)
986-0801　宮城県石巻市水明北３丁目13番28号
TEL /0225-96-1497　Email/ hjm-ja2@yg8.so-net.ne.jp
振替口座　02290-6-126186　口座名称　阿部　一
●代表／阿部　一　　●副代表／菊池せい子

信仰：「神の愛」と「神への愛」

●　東北の地は、田圃が連休過ぎには一斉に緑色に変わり木々の新緑も日毎に濃くなって来ました。2017年の折り返しの月に入りました。皆さんにはお変わりございませんか？

●　世界的に閉鎖感が漂う中で、国内外共にその脱却のためにとポスト真実的な発言が声高に叫ばれて政治の二極化が進み、保護主義と軍事力に頼ろうとする社会的な動きに大きな危惧を抱いています。

●　このような時代だからこそ、私たち信徒も、リーダーや自分たち教会の姿勢をしっかりみことばによって識別できる信仰が求められ、またその責任があります。

●　主は、自分たちこそ神の教えに忠実で、その権威を与えられていると自負し、律法の目に見える遵守を誇っていた当時の宗教的なリーダーたちに対して、「わざわいだ。パリサイ人。おまえたちは、はっか、うん香、あらゆる野菜などの十分の一を納めているが、**公義**と**神への愛**はなおざりにしています。これこそしなければならないことです。ただし、十分の一もなおざりにしてはいけません。」と激しいことばで非難しました。

●　この主イエスのことばの中で、「**公義**」と「**神への愛**」が何にもまして大切なことと強調されています。律法に基づく正義である「**公義**」は、旧約聖書でも強く求められているものです(エレミヤ7/5-6）。

●　ミカ書6/8節には「主はあなたに告げられた。「主よ。何が良いことなのか。主は何をあなたに求めておられるのか。それは、ただ公義を行い、誠実を愛し、へりくだって、あなたの神とともに歩むことではないか。」と。

●　さらに、現在の教会には無償でいただける「**神の愛**」ということばが溢れています。しかし、「**公義**」同様に「**神への愛**」はほとんど聞かれません。それが、アクセサリーの十字架と共に、神の愛を安っぽくさせている気がします。

●　パリサイ人シモンの家で、罪深い女が主の頭に高価な香油を塗った出来事の時に、主がシモンに語られた譬え話を思い起こす必要があります。主は、「500デナリと50デナリの借金を赦された二人のうち、どちらが多く金貸しを愛するか」と問われました。

●　このことは、現在あなたはあなたの罪の代価としての十字架の主イエスの死をどれくらいと値踏みしているかが問われているのです。その払い切れない代価を一方的に払って下さった恵みの大きさを私たちはもう一度確認する必要があります。私たちは、時間と共に他から受けた恵みを忘れがちであり、過小評価してしまう弱さがあるのです

●　自分の救いの恵みを正しく評価するとき、畏れと感謝を持って神の望まれる歩みをして「**神を愛する生き方**」を選択するはずです。本気で、へりくだって神を愛すること、そして他人を愛することを、聖書の神は、神の再創造の道をみことばに従って歩むことを私たちに求められています。

●　5/5に「大籠キリストキリシタン殉教公園」を教会員と一緒に訪ねて、この地でも神の愛に応えるために殉教までした先達が300人を越えていたことを知り、自らの心を探られたことです。

■ 先月の多くの恵みから

❶　5/5に教会員研修会として県北にある「風の沢ミュージアム」の現代アートと岩手県藤沢の「大籠キリシタン殉教公園・資料館・クルス館を訪ね、キリシタン弾圧の現場と歴史を学んできました。

❷　震災後子供支援を続けてこられたSolaの平田美保師がこの春より仙台に活動拠点を移して支援を続けるために5/1米内宏明牧師と共にご挨拶に訪問下さり、この群の働きのために特別に祈っていただきました。

❸　5/10に、石巻出身でクリスチャン画家として有名な渡辺総一ご夫妻が、高校の友人の高橋さんとともに教会を訪ねて下さいました。以前に、高橋さんを通して「福音と自由」2008/3月号の表紙になった原画「マツ」（イザヤ41/19）と渡辺さんの絵が用いられている本、作品解説書などを寄贈して頂いていました。聖書から描かれる絵と同様にそのお人柄に大きな感銘を受けました。

❹　毎月2回開かれている「楽しい手芸の会」に新たに2名の方が加わり、ショルダーバッグが仕上がり、現在は可愛い置物のワンちゃんを作成中です。

❺ 6/4にホーリー・ホープ・プロジェクト(HHP)の竹下　力師が礼拝メッセージの奉仕、竹下　静姉が特別賛美の奉仕をして下さいます。竹下姉は6/3に東松島で、6/4午後には仙台と石巻でコンサートの奉仕をされます。

❻ 6月第4週に、上原権治さんが石巻地区の教会や仮設でコンサートをして下さる予定です。

❼　6/1午後2時より、石巻クリスチャンセンター(ICC)の起工式が駅裏の元石巻キリスト教会跡で行われ、工事が開始されます。ICCの働きのためにお祈り下さい。

❽　5月も、訪問、お手紙や電話、メイルでの励ましと共に心のこもった献品と献金で支援に関する活動と小さな群の活動を支えて頂き、心から感謝します。

■ 今月、次の課題を祈っていただければ幸いです。

①自宅で療養中の大平姉の病が改善に向かいますように。
②長野県佐久市で奉仕されている濱　道子師の回復のために。
③祈りの家」の活動と石巻地区の各教会、宣教団体の働きを通して市民が一人でも多く救いに導かれますように。

群の定期集会

・礼拝（毎週日曜日）	10：00-11：30
・祈り会（毎週水曜日）	10：00-11：30
・聖書を読む会(第1火曜日)	10：30-12：00
・ほっと・Time (第3火曜日)	10：30-12：00
・コーラス「花」（第2,4木曜日）	13：30-15：00
・楽しい手芸（第2,4月曜日）	10：00-12：00
・学習支援（地域の子どもの要望に応えて）	

信仰を詠う

6月 大籠キリシタン殉教公園を訪ねて

三百を越す殉教の惨状に
　　背筋を走る　信仰の信念
トキゾー（徒刑場）、はし場（架場）、首塚、切捨場と
　　酷（むご）きに慄然　人間に吐息

ドロローサと口ずさみつつクルス館へ
　　姉妹の鳴らす鐘の音　天まで

阿 部 八重子

5月5日、教会で一迫風の沢ミュージアムの迷迷迷展（ジョシア君写真出品）見学と一関藤沢町の表題の場所へ研修旅行しました。東北地方では400人を、大籠地区だけでも300人を越す殉教数でした。

●＜祈り＞私たちの『祈りの家』が10年目の活動に入りました。福音を携え、地域で世の光として輝けるよう祈りの支援をお願い致します。

４月末から５月末までに来訪された先生方・兄姉および祈りの家の教会活動の様子

4/29 板戸市の時田師と会員が訪問

5/1 米内師とSolaの平田姉が来訪

4/30 金婚式の祝いで

画家渡辺総一ご夫妻と高橋誠さん来訪

ホズマーご夫妻との再会

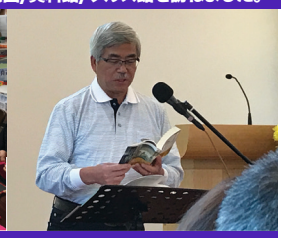
好天と新緑に恵まれた 5/5に教会研修として一迫の風の沢ミュージアム（その裏山から栗駒山をバックに記念撮影）と岩手県藤沢の大籠キリシタン殉教公園/資料館/クルス館を訪ねました。

妻が一坪農園に今年も野菜を植えました

庭は花盛りです

Dr.木下ご夫妻から新茶が

新しく2名が加わっての楽しい手芸の会


5/25 IMNでの中橋師の奨励

アドナイ・イルエ

「アドナイ・イルエ」＝主の山に備え在りの意

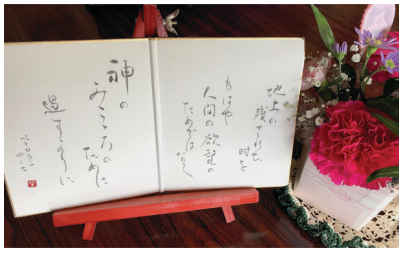
つれづれなるベッドの上での迷想――――――――

「地上の残された日々を・・」

キリスト教会「石巻祈りの家」代表　阿 部　　一

I'm 76 years YOUNG！などと昨年はジョークを言っていたが、昨年末に、生まれて初めてインフルエンザに罹ってから体調を崩し、さらに異常気候で5月で28℃という暑さが続く中で、またもや酷い鼻と喉の風邪で痰と鼻汁に悩まされた。体の置き場がないほどの疲労感で、最低限の仕事をするだけでベッドで横になって過ごした。気持ちだけが若いつもりでも体力はかなり落ちてきて、免疫力も下がっている証拠で、「正常に老いてきている」ということであろう。

あれもしたいこれもしなければという気持ちがあるが、体がついてこない。これは、じっくり休み、自分の人生を振り返る良い機会だと思い至ったときに、写真のみことばが頭に浮かんだ。このみことば「**地上の残された時を、もはや人間の欲望のためではなく、神のみこころのために過ごすように**」（第一ペテロ4/2）は、今回の大震災の支援として、シャローム福音教会の高齢の姉妹が御言葉を書いた沢山の栞と共に送って下さったものである。この御言葉は、喜寿を迎える私にとっては励ましのメッセージである。



この特別休暇でのベッドの中で、信仰書や聖書の他に、あまり集中して読んでこなかった日本の古典「方丈記」徒然草・蜻蛉日記・枕草子などを読み直した。

そして、小さい時に私に最も影響を与えた本は何だったかを思い巡らしたときに、直ぐ頭に浮かんできた1冊があった。「そうだ。あの本を読み直して見よう」とiPhoneで検索したら幸いに全5巻すべてがアップされていることを発見した。

その本とは、下村湖人の「次郎物語」である。それを手にしたのは、少なくとも小学校5年生ころと思う。その頃、私はある出来事を通して「自我」をしっかりと認識し始め、自分の理想と自分の真の姿のギャップに悩み、小さいながらも自己鍛錬を試み、その挫折。その繰り返しの中で、この主人公に出会い、彼の生き方に共鳴し、彼のように生きていきたいと決意し、意識的な生き方を始めたからである。今でも彼は私の心に生き続けている。今読み返して、私が読んだのはその1～2巻の内容で、小学高学年で読めたのだから、多分子ども用に書き換えたものであった思われる。第1巻は昭和16年に書かれているから、私の生まれた直後であり、第2巻は昭和17年、第3巻は19年、そして第4巻は1949（S24）年となっており、3巻で完結予定であったらしい。小説の手法としては珍しく本文の著者の説明があり、まさに著者がこの主人公の魂の成長を中心にして「人間とは何か、人間が生きていく際に最も大切なことは何か」などを問わせ、体験させ、より真実なものの希求へと読者を導いているからである。また、著者下村湖人は、自分の生育を主人公に重ねてこの「次郎物語」を書いたことは彼の経歴からも推測できる。

何故、そのようにこの本が私に影響を与えたかを考えてみると、時代背景が私が成長した時と重なっており、次郎が小さいときから他人の家で育てられたという重い経験、そんな中で人間として真っ直ぐな人生の歩みをしたいともがいていたことなどが私と共通していたことにある。彼には人間としての本質的なものを見抜き、ぶれない生き方をしていた父親がいたが、私は戦争で父を失っていて、顔も覚えていない父を次郎の父に重ね合わせ、その父が私をいつも見ているという思いを強くし小さいときから過ごしてきた。幸いなことに、私も次郎が出会った朝倉先生のような先生に会えたことと7つも年上でありながら、人生をまじめに考え、人生について熱い議論ができた青年との出会いがあった。この次郎の生き方をなぞる中で、次郎が愛読した「歎異抄」を通し、そこでは見いだせない「希望」を私は「聖書」を通して与えられた。

若い人でまだこの本を読んだことのない人には是非この本を読んで欲しい。それは著者や私達年代の者が経験したあの忌まわしい戦争へのめり込んで行く日本の社会背景と日本人の自立精神の脆さの中で、次郎が何を経験したか、何が起こったかをを描くことによって、大きな警告を今の時代だからこそ読み取って欲しいと願うからである。それはその時代があまりにも現在の日本に酷似しているからである。この時代におけるさまざまな決定に、他人任せではなく、自分が責任を持てるかをしっかり識別する力を付けておかないと、後で取り返しのつかないことになる。これは教会生活でもとても重要なことである。

著者は、その主張を第6巻と第7巻で書きたいと願っていたが寿命がそれを許さなかった。私たちは現状をしっかり見つめ直し、著者の書きたかったことを読み取る必要がある。

「**もはや自分の欲望ではなく神のみこころのために**」のみことばは、次郎との出会いを思い起こさせ、信仰者としての姿勢に新たな決意をさせてくれた。